

平成 29 年 2 月 24 日(土)に保健師職能交流研修会を開催しました。今回は「様々な部署で働く保健師が集まり語ろう」をテーマにし、産業分野からも大変多くの参加をいただき総勢 65 人で非常に盛り上がり充実した交流会となりました。



まず、山口県立大学の藤村孝枝教授から「地域包括ケアシステムについて～様々な分野で働く保健師の役割～」について御講演をいただきました。なぜ今地域包括ケアシステムが重要となってきたのか、また包括ケアの実施にはヘルスの視点を持つことが重要であり、地域・職域・医療のそれぞれが連携をすることが求められているということについてとても分かりやすいお話しでした。

参加者の感想(アンケートより抜粋)

- 地域包括ケアはどの世代にも関連することを確認できました。(40代市町)
- 目先の業務だけでなく地域全体を見る鳥の目を養っていききたい。(20代県)
- 勤労世代だけでなく退職後のことを考えながら継続的な取り組みをしていかないといけないと思いました。(30代事業所)

次に事例発表として、周防大島町の行田美穂さんから地元企業まで巻き込んだオール大島で取り組んでいる「ちょび塩」(減塩)報告と、日本通運(株)防府支店の桑原優子さんから、外部資源とネットワークを活用した産業保健活動について報告がありました。2人とも熱意にあふれ、いきいきと楽しく仕事をされている様子がとても印象的でした。常にアンテナを高く伸ばして関係機関と連携を持ちながら、住民・従業員の健康づくりに取り組まれている報告は、今後の活動の参考になりました。



参加者の感想(アンケートより抜粋)

- PDCA をまわしながら活動することが大切と感じました。(30代事業所)
- 職域と行政の連携の必要性を改めて感じました。(30代事業所)
- 地域、生活に根付いた活動こそ地域包括ケアにつながると思います。(50代市町)
- 県・市町だけでなく、産業や学校とも連携が広がっていけば、面白い事業展開ができると思った。(20代県)

最後にグループに分かれ情報交換を行いました。普段、地域と職域の現場レベルでは、なかなか交流の機会もないため、お互いの現状や課題を知ることができ、情報交換は非常に盛り上がり、連携のきっかけとなりました。連携や協働には、まずお互い顔の見える関係づくりが大事ですが、「こんな交流会が地域ごとにあると良い」との声も聞かれ、看護協会保健師職能ならではの交流会になりました。